

2008 年度 京大サロントーク

- 第 49 回 「京都大学にとって産官学連携とは何か」
- 第 48 回 「暴力の由来」
- 第 47 回 「不思議な植物エンセーテ：アフリカでのフィールドワークを通じて考えてきたこと」
- 第 46 回 「宇宙から見るアジアの地震」
- 第 45 回 「シルクロードの仏教遺跡を掘る」
- 第 44 回 「ユダヤ教の人間観」
- 第 43 回 「再発見！京大の歴史」
- 第 42 回 「救急医療と災害医療－京都は大丈夫？－」
- 第 41 回 「ジュゴン、ウミガメ、オオナマズを追いかける・・・希少水圏生物の保護と共存」

※京大サロントークは、すべて以下の条件で開催しています

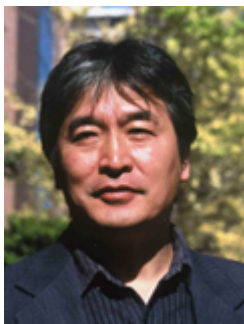
- ＜時間＞ 18 時 00 分から 19 時 30 分
- ＜会場＞ 百周年時計台記念館 1 階 京都大学サロン
- ＜対象＞ 本学の教職員および学生
- ＜定員＞ 45 名（先着順）（定員になり次第締め切ります。）
- ＜参加費＞ 飲みもの代として入場の際、500 円を頂きます。
- ＜申込＞ H P からの事前申し込み

第 49 回 京大サロントーク -平成 21 年 4 月 14 日（火曜日）開催



最近産学連携が注目され、マスコミで取り上げられる機会も増えているようです。そのような時期に、研究、教育を本務とする大学にとって「産」や「官」と連携するとはどのようなことなのか、教員、学生にとってどのような意味があるのかを、基本的な視点に立ち戻ってゆっくり考えてみたいと思います。

第 48 回 京大サロントーク -平成 21 年 2 月 10 日（火曜日）開催



第二次世界大戦の直後、欧米で提唱された狩猟仮説によると、暴力は人間が本能として持っている攻撃性を武器によって拡大した結果であり、戦争は人間社会にとって不可避の現象だということになる。

しかし、最近の研究から狩猟仮説は大きな間違いであることがわかった。そもそも、動物にとって狩猟をすることと同種の仲間を攻撃することとは目的も方法も違う。

私が長年研究してきたゴリラは、暴力の権化と見なされ、19 世紀以来人々から大きな誤解を受けてきた動物である。なぜゴリラは誤解されたのか。そこに狩猟仮説の誤りも見て取ることができる。

人間に特有な暴力とは何か。最近のゴリラと類人猿の研究から私見を述べてみたい。

第 47 回 京大サロントーク -平成 20 年 12 月 9 日（火曜日）開催



エンセーテは、エチオピア起源の植物です。アジアやアフリカのさまざまな地域に自生していますが、エチオピア南部の人々だけがエンセーテを栽培してきました。その不思議な特長と優れた特質に注目して、地元の人と一緒に取り組みはじめた実践的な地域研究についてお話します。

第 46 回 京大サロントーク -平成 20 年 11 月 11 日（火曜日）開催



2004 年のスマトラ地震以来、今年の四川の地震などアジアでは大地震が続発している。SAR や GPS などの宇宙測地技術により、これらの地震による変動の様子を捉えてきた。これらのデータを基に、これらの地震はどのようにして発生したのか、そして、アジアの変動帯にどのような影響をもたらすのか、考察する。

第 45 回 京大サロントーク -平成 20 年 10 月 21 日（火曜日）開催



京都大学人文科学研究所では、仏教文化の源流を求めて、シルクロードの東西に位置する雲岡石窟とガンダーラ寺院址を 70 年にわたって調査してきた。日本の海外調査をリードしてきた歴史をふりかえり、蓄積された知的財産を今後いかに活用していくかを考える。

第44回 京大サロントーク -平成20年9月9日（火曜日）開催



唯一神教の祖であるユダヤ教。物理的國家を失うも幾多の危機の歴史を乗り越えて、現代に至るまで生き延び、学術、文化様々な場面で多大な影響を与えてきた。イスラエルでの生活体験も踏まえ、ユダヤ教の人間観を探る。

第43回 京大サロントーク -平成20年7月8日（火曜日）開催



「自由な学風」で知られる京大。その歴史について、時計台記念館の歴史展示を手がかりに、「自由」に語り合いたいと思います。

第 42 回 京大サロントーク -平成 20 年 6 月 10 日（火曜日）開催



最近マスコミで救急医療の崩壊と騒がれているが、そんな大変なことになっているのか？災害医療って何？救急現場からの視点で語る。

第 41 回 京大サロントーク -平成 20 年 5 月 13 日（火曜日）開催



私たちの研究室では、東南アジアをフィールドに絶滅のおそれがある希少な水圏生物を追いかけている。水圏生物の行動は肉眼で観察するのは困難である。しかし、近年、情報通信技術の進展にともなって、超小型の発信機や記録計を生物に装着することで、その行動を明らかに出来るようになった。こうした手法をバイオテレメトリー（生物遠隔測定）と称しているが、最近ではバイオリギング・サイエンスという日本発の研究分野として定着しつつある。サロントークでは、ジュゴン、ウミガメ、メコンオオナマズ の生態を解明するために私たちが取り組んでいる研究の紹介とバイオリギング・サイエンスの可能性を語る。